

advantage
アヴァンタージュ

保証金額付特別勘定年金特約(終身型)付変額個人年金保険(06)

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

お問い合わせ先: カスタマーサービスセンター
Tel 0120-375-193アクサ生命ホームページ
<http://www.axa.co.jp/>

特別勘定(世界分散型40CM(512)/世界分散型20CM(513))

月次運用レポート

2016年12月

【利用する投資信託の委託会社】

 三井住友トラスト・アセットマネジメント
SUMITOMO MITSUI TRUST ASSET MANAGEMENT

三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社は、2012年4月に中央三井アセットマネジメント株式会社と住信アセットマネジメント株式会社が合併して誕生した投資信託委託会社です。現在、投資信託委託業務を中心に個人および法人のお客様に多様な商品サービスを提供しており、変額個人年金保険向け投資信託については特に力を入れています。

- ・ 当保険商品は特別勘定で運用を行います。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・ 当資料は、特別勘定の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・ 商品内容の詳細については「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」等をあわせてご覧ください。
- ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額個人年金保険 (06)

特別勘定の月次運用レポート (2016年12月)

・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境

【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX(東証株価指数)が前月末比+3.35%の1,518.61ポイントで終了しました。

月前半は、米国の長期金利が上昇する一方、日銀の政策によって日本の長期金利の上昇は抑えられ、日米金利差が拡大してきたことなどを背景に、円安ドル高が進行したことを受けて、上昇しました。月後半は、日銀が金融政策決定会合で景気判断を上方修正したことが好感され、上昇する場面もありましたが、下旬にかけては利益確定目的の売りに押される展開となりました。

業種別(東証33業種)では、原油価格の上昇を受けて「石油・石炭製品」(前月末比+13.05%)が最も上昇した一方、「その他製品」(同△2.83%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、月前半、ISM(供給管理協会)製造業・非製造業景況指数が市場予想を上回ったことや、堅調な雇用統計などを背景に、上昇しました。月後半は、FRB(米連邦準備制度理事会)が利上げのペースを速めるとの警戒感から、上値が重い推移となり、小幅に下落しました。月を通してみると、NYダウは、前月末比+3.34%の19,762.60ドルで終了しました。

欧州株式市場は、月前半、ECB(欧州中央銀行)理事会にて、資産買入の延長が決定されたことや、米ドル高ユーロ安が進行したことを受けて、上昇しました。月後半は、主要先進国の株価が堅調に推移した事などを受けて、上昇しました。市場別騰落率は、英FTSE100が前月末比+5.29%、仏CAC40が同+6.20%、独DAXが同+7.90%となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、月前半、米国の長期金利が上昇したことや、株高で推移していたことを受けて、金利は上昇(価格は下落)しました。月後半は、日銀が国債買入れオペの超長期債の購入額を増額したことや、金融政策決定会合で緩和政策の継続を示したことを受けて、金利は低下(価格は上昇)しました。新発10年国債利回りは、月末は0.040%となりました(前月末は0.020%)。

日銀が一部当座預金にマイナス金利を適用していることから、無担保コール(翌日物)は概ね△0.06~△0.03%近辺で推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、月前半、米雇用統計や、ISM製造業・非製造業景況指数などの米景気指標が堅調であったことや、FOMC(連邦公開市場委員会)で1年ぶりの利上げが決まり、利上げペースをやや上方修正したことを受けて、金利は上昇(価格は下落)しました。月後半は、買い戻しの動きが強まったことや、ロシアの駐トルコ大使が襲撃されたことなどで地政学リスクが高まったことを受けて、金利は低下(価格は上昇)しました。米10年国債利回りは、月末は2.444%となりました(前月末は2.381%)。

欧州債券市場は、月前半、ECB理事会にて、資産買入規模の縮小が決定されたことや、米国の利上げペースが上方修正された事などを受けて、金利は上昇しました。月後半は、イタリアの銀行セクターへの信用懸念が高まったことを受けて、金利は低下しました。独10年国債利回りは、月末は0.208%となりました(前月末は0.275%)。

FRB(米連邦準備制度理事会)は、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を引き上げ、年0.50~0.75%としました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を据え置き、年0.00%を維持しました。

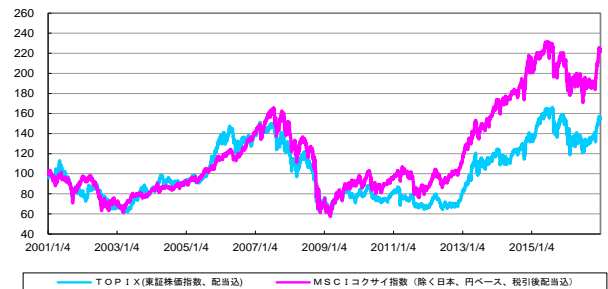
【外国為替市場】

米ドル/円相場は、前月末比4円07銭円安ドル高の1ドル=116円49銭となりました。月前半、米雇用統計や、ISM製造業・非製造業景況指数などの米景気指標が堅調であったことや、FOMCで1年ぶりの利上げが決まり、利上げペースをやや上方修正したことを受けて、円安が進行しました。月後半は、日銀が金融政策決定会合にて金融政策を据え置くと、一時円安に振れましたが、影響は限定的で、ほぼ横ばいで推移しました。

ユーロ/円相場は、前月末比3円00銭円安ユーロ高の1ユーロ=122円70銭となりました。月前半、ECB理事会にて、資産買入の延長が決定されたことを受けて円高に振れる場面もありましたが、FOMCで米国の利上げが決定されると、対米ドルで円がユーロよりも下落したため、円安が進行しました。月後半は、イタリアの銀行セクターへの信用懸念が高まったことを受けて、円高が進行する場面もありましたが、ほぼ横ばいで推移しました。

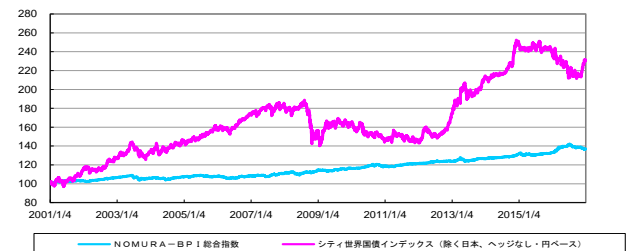
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

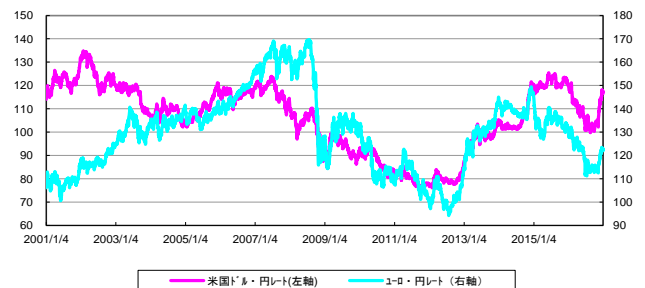


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所:株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場値

変額個人年金保険 (06) 特別勘定の月次運用レポート (2016年12月)

・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	利用する投資信託の運用方針
世界分散型40CM(512)	<ul style="list-style-type: none"> ● 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行い、実質的に国内外の株式および公社債等に投資を行います。当ファンドが主要投資対象とする各マザーファンドの基本配分比率は以下の通りとし、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。 日本株式マザーファンド20%、日本債券マザーファンド30%、外国株式マザーファンド20%、外国債券マザーファンド30% *1 <p>*1: 当ファンドは、外貨建債券資産および外国債券マザーファンドの組入れに伴う実質組入外貨建資産の50%部分の為替変動リスクに対しては、原則として為替ヘッジを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実際の資産配分については、基本配分比率に対して一定の変動許容幅を設け、その範囲内で調整を行います。 ● 当ファンドの主なリスク 株価変動リスク、金利変動リスク、信用リスク、流動性リスク、カントリーリスク、為替リスク
利用する投資信託	
VAポートフォリオ40 (適格機関投資家専用)	
世界分散型20CM(513)	<ul style="list-style-type: none"> ● 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行い、実質的に国内外の株式および公社債等に投資を行います。当ファンドが主要投資対象とする各マザーファンドの基本配分比率は以下の通りとし、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。 日本株式マザーファンド10%、日本債券マザーファンド40%、外国株式マザーファンド10%、外国債券マザーファンド40% *2 <p>*2: 当ファンドは、外貨建債券資産および外国債券マザーファンドの組入れに伴う実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては、原則として為替ヘッジを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実際の資産配分については、基本配分比率に対して一定の変動許容幅を設け、その範囲内で調整を行います。 ● 当ファンドの主なリスク 株価変動リスク、金利変動リスク、信用リスク、流動性リスク、カントリーリスク、為替リスク
利用する投資信託	
VAポートフォリオ20 (適格機関投資家専用)	

※「ファミリーファンド方式」とは、投資家から投資された資金をまとめてペーパーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資して、その実質的な運用はマザーファンドで行う仕組みのことをいいます。

特別勘定の運用状況

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。

世界分散型40CM(512)



※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定の設定日を100.00として計算しています。

世界分散型20CM(513)



特別勘定のユニットプライス	騰落率(%)
2016年12月末	107.08 過去1ヶ月 2.00%
2016年11月末	104.99 過去3ヶ月 5.79%
2016年10月末	102.10 過去6ヶ月 6.72%
2016年9月末	101.22 過去1年 ▲0.76%
2016年8月末	102.14 過去3年 7.48%
2016年7月末	102.70 設定来 7.09%

※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する今月末のユニットプライスの変動率を表しています。

特別勘定のユニットプライス	騰落率(%)
2016年12月末	105.03 過去1ヶ月 0.51%
2016年11月末	104.49 過去3ヶ月 0.32%
2016年10月末	104.24 過去6ヶ月 0.20%
2016年9月末	104.70 過去1年 ▲0.15%
2016年8月末	105.19 過去3年 4.82%
2016年7月末	105.73 設定来 5.04%

■特別勘定資産の内訳

項目	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	98,273	1.3%
その他有価証券	7,724,242	98.7%
合計	7,822,516	100.0%

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しております。

項目	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	6,798	1.1%
その他有価証券	590,640	98.9%
合計	597,438	100.0%

変額個人年金保険 (06)

特別勘定の月次運用レポート (2016年12月)

・投資信託の運用状況は、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

VAポートフォリオ40(適格機関投資家専用)の運用状況

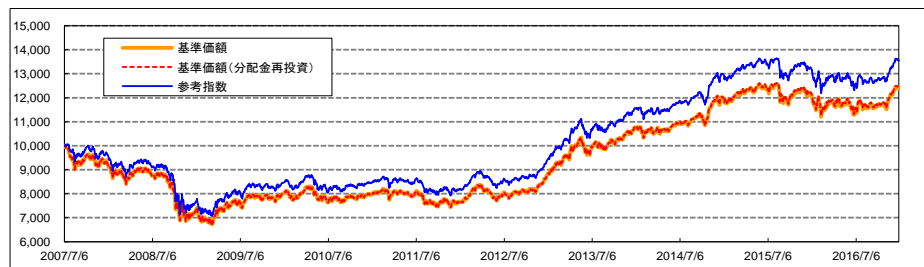
【運用方針】

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ない、実質的に国内外の株式および公社債等に投資を行います。当ファンドが主要投資対象とする各マザーファンドは、それぞれのベンチマーク(運用成果を判断するうえで基準とする指数)と連動する投資成果を目標とする運用を行います。

■各マザーファンドとベンチマーク

利用する投資信託名	基本資産配分比率	マザーファンド受益証券	委託会社	ベンチマーク	参照ページ
VAポートフォリオ40 (適格機関投資家専用)	日本株式	20.0%	日本株式マザーファンド	「TOPIX(東証株価指数)」 ただし、配当込み指数を使用しています。	6ページ
	日本債券	30.0%	日本債券マザーファンド		
	外国株式	20.0%	外国株式マザーファンド	「MSCIロクサイ指数(円ベース)」 ただし、配当込み指数を使用しています。	6ページ
	外国債券(ヘッジあり)	15.0%	外国債券マザーファンド		
	外国債券(ヘッジなし)	15.0%			
				「シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)」 ※「VAポートフォリオ40(適格機関投資家専用)」においては、外国債券マザーファンド受益証券の組入れに伴う実質的な組入れ外貨建資産の50%部分について原則として為替ヘッジを行いますので、合成指数の算出に際しては「シティ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)」も併せて使用します。	6ページ

■基準価額の推移



- ※ グラフは、VAポートフォリオ40(適格機関投資家専用)の設定日(2007年7月9日)の前営業日を10,000として指数化しています。
- ※ 基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率0.3024%程度(税抜0.28%程度))控除後の値です。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ※ 参考指数は、TOPIX(東証株価指数)20%、NOMURA-BPI総合30%、MSCIロクサイ指数(円ベース)20%、シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)15%、およびシティ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)15%で組み合わせた合成指数です。

■概況

	当月末	前月末	前月末比
基準価額	12,382円	12,114円	268円
純資産総額(百万円)	18,410	18,196	214

■騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	2.21%	6.46%	8.03%	1.53%	15.30%	24.26%
参考指数	2.08%	6.28%	8.24%	1.94%	16.90%	35.32%
差	0.14%	0.18%	▲0.21%	▲0.42%	▲1.60%	▲11.06%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。
また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。

■資産構成

	基本資産配分比率	ファンドの資産構成
日本株式マザーファンド	20.00%	19.84%
日本債券マザーファンド	30.00%	30.17%
外国株式マザーファンド	20.00%	19.81%
外国債券マザーファンド(ヘッジあり)	15.00%	14.79%
外国債券マザーファンド(ヘッジなし)	15.00%	15.24%
コール・その他	0.00%	0.16%
合計	100.00%	100.00%

- ※ ファンドの資産構成は、純資産総額に対する比率です。
- ※ 計理処理の仕組み上、直近の追加設定分が反映されないことなどにより「コール・その他」の値がマイナスで表示されることがあります。
- ※ REITの組入れがある場合、REITは株式に含めて表示しています。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

変額個人年金保険 (06) 特別勘定の月次運用レポート (2016年12月)

・投資信託の運用状況は、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

VAポートフォリオ20(適格機関投資家専用)の運用状況

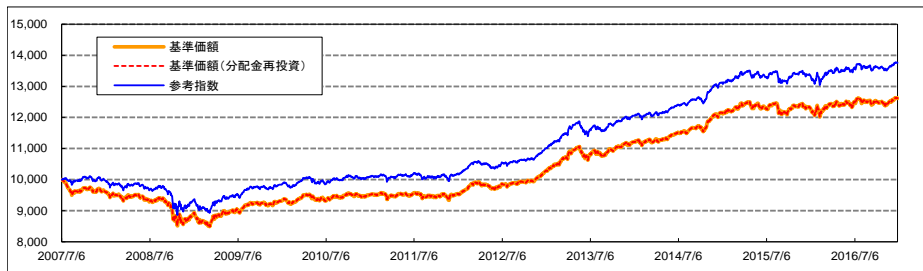
【運用方針】

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ない、実質的に国内外の株式および公社債等に投資を行います。当ファンドが主要投資対象とする各マザーファンドは、それぞれのベンチマーク(運用成果を判断するうえで基準とする指数)と連動する投資成果を目標とする運用を行います。

■各マザーファンドとベンチマーク

利用する投資信託名	基本資産配分比率	マザーファンド受益証券	委託会社	ベンチマーク	参照ページ	
VAポートフォリオ20 (適格機関投資家専用)	日本株式	10.0%	日本株式マザーファンド	「TOPIX(東証株価指数)」 ただし、配当込み指数を使用しています。	6ページ	
	日本債券	40.0%	日本債券マザーファンド		「NOMURA-BPI総合」	6ページ
	外国株式	10.0%	外国株式マザーファンド	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	「MSCIロクサイ指数(円ベース)」 ただし、配当込み指数を使用しています。	6ページ
	外国債券(ヘッジあり)	40.0%	外国債券マザーファンド		「シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)」 ※「VAポートフォリオ20(適格機関投資家専用)」においては、外国債券マザーファンド受益証券の組入れに伴う実質的な組入れ外貨建資産について原則として為替ヘッジを行いますので、合成指数の算出に際しては「シティ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)」を使用します。	6ページ

■基準価額の推移



- ※ グラフは、VAポートフォリオ20(適格機関投資家専用)の設定日(2007年7月9日)の前営業日を10,000として指数化しています。
- ※ 基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率0.3024%程度(税抜0.28%程度))控除後の値です。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ※ 参考指数は、TOPIX(東証株価指数)10%、NOMURA-BPI総合40%、MSCIロクサイ指数(円ベース)10%、シティ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)40%を組み合わせた合成指数です。

■概況

	当月末	前月末	前月末比
基準価額	12,621円	12,531円	90円
純資産総額(百万円)	1,108	1,114	▲6

■騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	0.72%	0.91%	1.39%	2.22%	12.57%	26.21%
参考指数	0.72%	0.93%	1.58%	2.71%	14.11%	37.58%
差	▲0.00%	▲0.02%	▲0.20%	▲0.49%	▲1.55%	▲11.37%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。
また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。

■資産構成

	基本資産配分比率	ファンドの資産構成
日本株式マザーファンド	10.00%	9.93%
日本債券マザーファンド	40.00%	40.27%
外国株式マザーファンド	10.00%	9.91%
外国債券マザーファンド(ヘッジあり)	40.00%	39.47%
コール・その他	0.00%	0.42%
合計	100.00%	100.00%

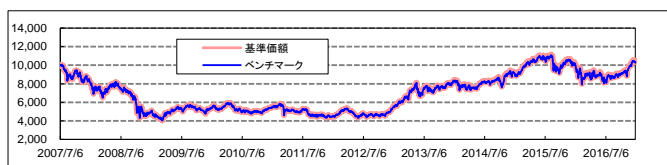
- ※ ファンドの資産構成は、純資産総額に対する比率です。
- ※ 計理処理の仕組み上、直近の追加設定分が反映されないことなどにより「コール・その他」の値がマイナスで表示されることがあります。
- ※ REITの組入れがある場合、REITは株式に含めて表示しています。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

変額個人年金保険 (06) 特別勘定の月次運用レポート (2016年12月)

《参考情報》日本株式マザーファンド

■基準価額の推移



※ ベンチマーク / BM : TOPIX (東証株価指数配当込み)
 ※ 2007年7月9日の前営業日を10,000として指数化しています。

■概況

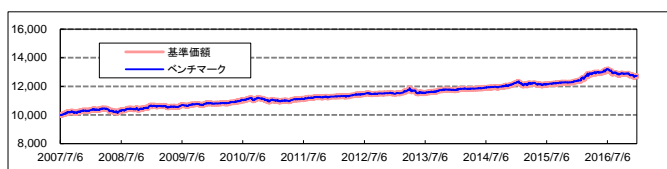
	当月末
純資産総額(百万円)	225,847

■騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
ファンド	3.47%	14.99%	23.16%	0.33%	24.16%	3.95%
ベンチマーク	3.47%	14.95%	23.15%	0.31%	23.96%	3.37%
差	0.00%	0.04%	0.01%	0.02%	0.20%	0.58%

《参考情報》日本債券マザーファンド

■基準価額の推移



※ ベンチマーク / BM : NOMURA-BPI総合
 ※ 2007年7月9日の前営業日を10,000として指数化しています。

■概況

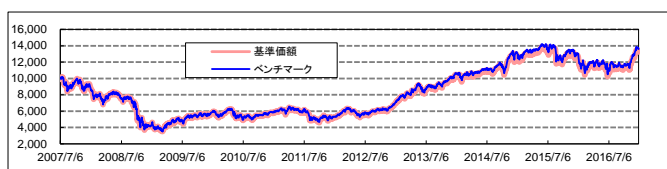
	当月末
純資産総額(百万円)	320,696

■騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
ファンド	▲0.55%	▲1.46%	▲3.16%	2.99%	8.55%	27.21%
ベンチマーク	▲0.56%	▲1.47%	▲3.19%	2.97%	8.49%	27.27%
差	0.01%	0.01%	0.03%	0.02%	0.06%	▲0.06%

《参考情報》外国株式マザーファンド

■基準価額の推移



※ ベンチマーク / BM : MSCIコクサイ指数(円ベース配当込み)
 ※ 2007年7月9日の前営業日を10,000として指数化しています。

■概況

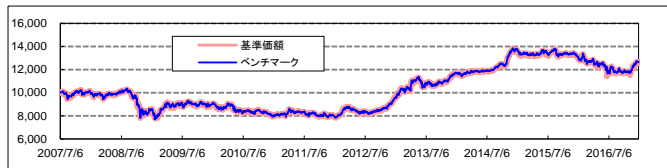
	当月末
純資産総額(百万円)	234,177

■騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
ファンド	6.33%	18.62%	22.77%	3.35%	26.38%	32.64%
ベンチマーク	5.77%	17.75%	22.95%	3.55%	27.31%	35.80%
差	0.56%	0.87%	▲0.19%	▲0.21%	▲0.93%	▲3.16%

《参考情報》外国債券マザーファンド

■基準価額の推移



※ ベンチマーク / BM : シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)
 ※ 2007年7月9日の前営業日を10,000として指数化しています。

■概況

	当月末
純資産総額(百万円)	170,996

■騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
ファンド	3.08%	7.49%	6.44%	▲3.73%	7.60%	26.53%
ベンチマーク	2.59%	6.54%	6.43%	▲3.74%	7.71%	26.44%
差	0.49%	0.95%	0.01%	0.01%	▲0.11%	0.10%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

変額個人年金保険(06)の投資リスク及び諸費用について

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額個人年金保険です。特別勘定資産の運用は、投資信託を利用して国内外の株式・公社債等で行なっており、株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。

【諸費用について】

この商品にかかる費用の合計額は、下記の各費用の合計額となります。

〈ご契約時〉

項目	費用	ご負担いただく時期
契約初期費	ご契約の締結等に必要な費用 一時払保険料に対して 5.0%	特別勘定に繰り入れる際に、一時払保険料から控除します。

〈積立期間中および年金支払期間中〉

項目	費用	ご負担いただく時期
保険契約関係費	既払年金累計金額と死亡一時金額の合計金額の最低保証、死亡給付金額の最低保証、災害死亡給付金額のお支払い、ならびに、ご契約の維持等に必要な費用	積立金額に対して左記割合(率)を乗じた金額の1/365を、毎日、特別勘定の積立金額から控除します。
運用関係費	投資信託の信託報酬等、特別勘定の運用に必要な費用	特別勘定にて利用する投資信託における純資産総額に対して左記割合(率)を乗じた金額の1/365を、毎日、投資信託の純資産総額から控除します。

※1 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。

信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。

したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。

これらの運用関係費は、特別勘定の廃止もしくは統合・運用協力会社の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

〈一般勘定で運用する年金の支払期間中〉

「年金払特約(06)」により年金をお受け取りいただく場合を含みます。

項目	費用	ご負担いただく時期
年金管理費	年金のお支払いや管理等に 必要な費用 1.0% ^{※2}	年金支払日に責任準備金から控除します。

※2 年金管理費は、将来変更される可能性があります。

【その他の留意事項について】

■受取総額保証金額(終身型)

受取総額保証金額の最低保証は、年金を特別勘定終身年金でお受け取りいただく場合に限られます。特別勘定終身年金以外の方法でお受け取りいただく場合や、積立期間中にご契約を解約される場合、もしくは年金受取期間中に積立金額を一括でお受け取りいただく場合には、お受け取りになる金額が一時払保険料を下回る場合があります。